

旧砂取細川邸庭園（旧江津花壇）

現在のくまもと文学歴史館と西側の藻器堀川との間にある、阿蘇伏流水の湧水を利用した庭園。旧江津花壇庭園、絵津花壇十二勝園庭園などと呼ばれる。

庭園造営の時期については諸説あるが、旧砂取細川邸の庭園として江戸時代後期に成立したと考えられている。幕末から明治 10（1887）年頃まで藩主細川家の別邸として存続しており、「明治七年日記」により第 10 代藩主細川斉護の正室顕光院の住居（隠居所）として使用されていたことが確認されている。その後、細川家の別家内膳家本邸として使用された。

大正 11（1922）年に料亭経営者の六車初次郎が借り受け、料亭「江津花壇」と称した料亭の庭として使用された。その後、昭和 17（1942）年から昭和 24（1949）年まで三菱の江津荘として使用され、昭和 24（1949）年から昭和 55（1980）年まで井関農機の江津荘として使用された。

その後、昭和 55 熊本県が買収し、水前寺成趣園を含む水前寺・江津湖一帯を広域公園として計画。旧砂取細川邸庭園を含む出水地区をカルチャーパーク地区として、昭和 60（1985）年に熊本県立図書館新館・近代文学館（現熊本県立図書館・くまもと文学歴史館）が整備された。

残されている庭園の飛び石や水の流れ・池の形・出島の配置・築山の位置などが「砂取御邸絵図」（明治 7（1874）年、永青文庫所蔵）とほぼ一致している。また、庭園に隣接して群植された芭蕉林も湧水の流れとともに水辺景観を形成している。

以上のように、庭園を囲む周辺の様相は変化しているが、水前寺・江津湖地区特有の湧水を活かした庭園としての景観もほぼ良好に残されていることから貴重である。

【関連資料等】

十二勝園記（安政 4 年）

1. 画湖秋月、2. 木原回雁、3. 沙村夜燈、4. 飯山涼風、5. 小幡帰帆、6. 蘇嶽朝敦、7. 曲水流螢、8. 金峰夕陽、9. 中澤霜葉、10. 晩磯鷺景、11. 孤島雪松、12. 寒汀蘆花

砂取御邸絵図（明治 7 年・永青文庫所蔵）

熊本市にある旧江津花壇（旧砂取邸）庭園の変遷に関する研究（日本造園学会誌、延藤二三子・李樹華著）

旧砂取邸庭園の歴史的価値について（熊本県立図書館・くまもと近代文学館 参事 青木勝士）

旧砂取細川邸庭園の文化財指定（市指定）に向けた検討について

（１）指定理由

庭園部分は、明治７年（1874）当時の絵図と現状がほぼ一致しており、往時の姿が良く残る。
水前寺江津湖の湧水を取り込んだ庭園として、景観上・鑑賞上も高い価値を持つ。
細川家別邸の庭園として市内に唯一残る。

（２）指定範囲

別紙の通り

（３）指定後の保存・活用について

保存

- ・地形等の保存（飛石、池の形状、飛石づたいにある散策路）
- ・指定範囲外を含めた湧水の流れる環境の保存（水前寺成趣園から藻器堀川、有吉家別邸跡など）
- ・カワセミの営巣地の保存

活用

- ・周辺施設と連携した活用
- ・県立図書館／くまもと文学・歴史館と連携した活用

（４）指定までの想定スケジュール

平成 30 年度 関係者協議

平成 31 年度 熊本市文化財保護委員会への諮問

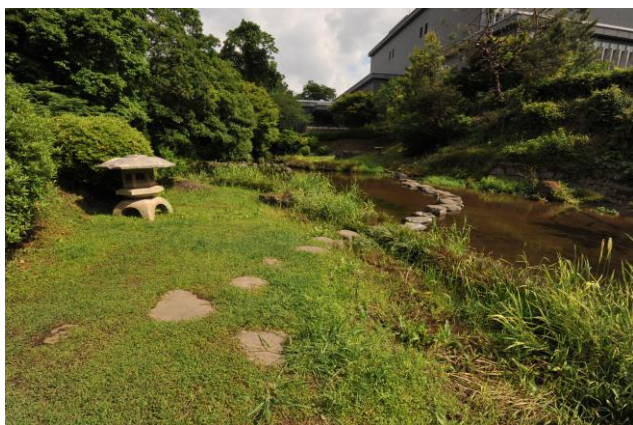
【現況写真】



▲北側園路から



▲南から



▲西から



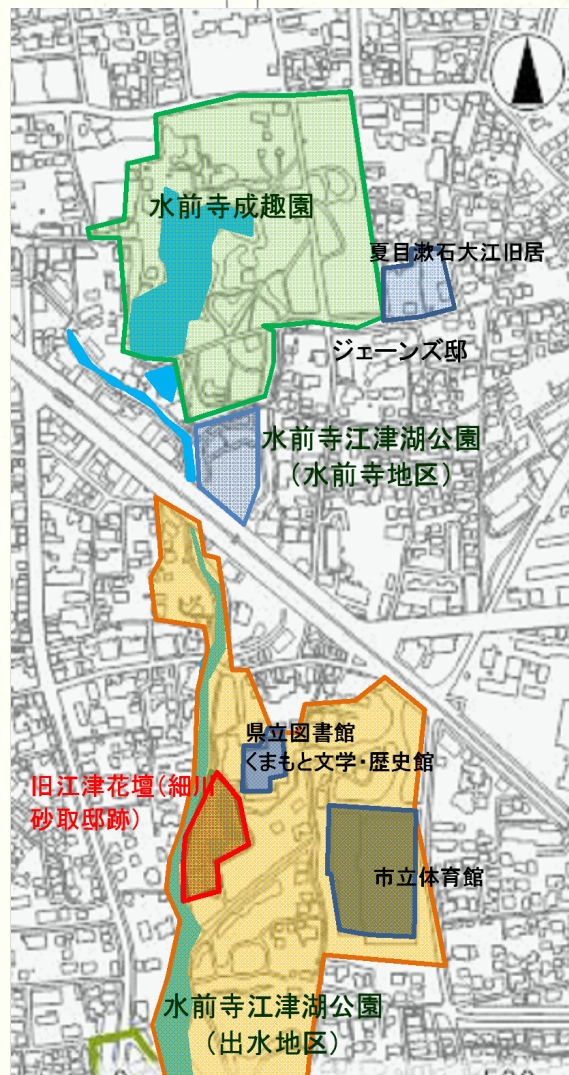
▲庭園北側



▲庭園北側から



▲希首座の祠



江津湖の文学碑群

